

## ■ようこそ みちのく自然共生園

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野など、里地の自然を再生しています。

## ■見どころ紹介

### ～里地の自然～

#### 耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

### ～水辺の自然～

#### 湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川・池

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、ノハナショウブ、チダケサシ、クサレタマ、アマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ等が咲きます。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

### ～草原の自然～

#### 展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、人の手で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウ、リンドウなど、50種類ほどの野草をタネから育てて増やしています。野草が彩る広大な草原には、ヒバリやチョウ等、草原の生き物も増えてきました。

放牧区ではヤギやヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。

### ～樹林の自然～

#### コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース(1,600m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)

▲ : 見所

### ～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行けます。



### ～体験施設～

#### 自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。ボランティアや会員活動の参加も募集しています。詳しくはスタッフまで。

#### 知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター  
TEL 0224-84-5991  
〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9  
<http://www.michinoku-park.info/wp/>



## ここを観てみよう！

### ■草原に咲く花

#### クガイソウ（位置B）

自然共生園に1株のみ自生していたもので、タネを採って増やそうとしています。「がい」とは笠を数える単位だそうです。輪生する葉を見立てた「がい」は9段？



#### ホタルブクロ（位置Cなど）

草地や林縁等に生えるキョウ科の多年草。ホタルが飛ぶ頃に咲き、ホタルを筒状の花に入れて遊んだとか。共生園にはホタルブクロとヤマホタルブクロがあり、顎片の一部が反り返る方がホタルブクロです。



#### クララ（位置B・Cなど）

草原に生えるマメ科の多年草です。有毒植物で、誤って食べた牛馬がクラクラしたり、根がクラクラするほど苦いことが、名の由来だとか。ハナバチが蜜を求めて訪れます。



## ここを観てみよう！

### ■一日だけの花

#### アヤマ（位置C）

5月下旬から6月上旬に咲きます。花びらの模様は黄色と白色の網目模様です。乾いた草地などに生えます。よく似たカキツバタの模様は白線で、水辺に生えます。



#### ノハナショウブ（位置A・B）

6月中旬から7月初旬に咲きます。花びらの模様は黄色の線です。湿地や湿った草地に生えます。花菖蒲の原種です。里地の湿地の減少で、少なくなっています。



#### ニッコウキスゲ（位置B・E）

尾瀬など、山地の高原や湿原で群生するイメージがある花ですが、東北地方では里地里山にも生えます。しばしばカラスアゲハが訪花します。6月上旬まで楽しめます。



みちのく公園北地区



# てくてくマップ 自然共生園

## 6月

ノハナショウブ(花菖蒲の原種)

## ここを観てみよう！

### ■白い木の花

#### ウツギ（位置G）

「卯の花」とも呼ばれる低木です。枝が中空であることから空木（うつぎ）の名があります。田畑の境界木に用いられ、園内のウツギもかつての田んぼの境界木です。



#### エゴノキ（位置F）

雑木林に多い小高木です。垂れ下がる花にはハナバチが集まります。実の皮には有毒のサポニンを含み、石鹸に用いられました。



#### マタタビ（位置D）

林縁等に生える蔓です。梅の花に似た白い花を下向きにつけ、芳香があります。訪花昆虫を誘うためか、花に時期だけ葉の表面が白くなり、蔓全体が目立つようになります。雌株は秋に橙色の実をつけます。



## ここを観てみよう！

### ■ノアザミに来る昆虫

ノアザミの花にはたくさんの蝶やハナアブ、ハナムグリ等が集まります。上向きに咲くノアザミの花は飛ぶのが下手でも止まりやすく、甲虫なども飛来します。ヒョウ柄模様の蝶はヒョウモンチョウの仲間です。6月に多く見られますが、夏にはいったん姿が消え、ノハラアザミが咲く頃の秋に再び現れます。食草はスミレです。



### ■アヤマやノハナショウブに来る昆虫

複雑な形の花の蜜は花の付根にあります。蜜を得るには暖簾のような花柱を押しつけて潜らなければなりません。これができるのは、マルハナバチで、花に潜ると背中に花粉が付く仕掛けです。マルハナバチの働き蜂は、同じ種類の花を回る傾向があり、花には好都合です。マルハナバチだけを呼ぶような形状に変化した花が、有利に進化してきたのでしょう。でも、近年、そのマルハナバチがいなくなってきたので、ピンチなのです！



## ここを観てみよう！

### けたたましい鳴き声を楽しもう

#### オオヨシキリ（位置H・J）

東南アジアから渡ってきた夏鳥です。ヨシ原などで営巣し、ヨシを切って虫を採ることが名の由来です。オスは、一夫多妻で縄張りを守るのが大変なのか、「行行子、行行子（ギョギョシ）」と盛んに叫んでいます。



#### キジ（草むらに多い）

草地が多い園内に多く生息しており、足元から鋭い鳴き声とともに突然飛び出し、びっくりさせられることも。日本の国鳥です。



#### ガビチョウ（藪に多い）

中国南部等に生息し、囀りが美しいため、飼われていたものが、放されたりして全国で殖えています。侵略的外来種ワースト100です。目元の白線としつこい囀りが特徴です。

